カトリック教報

カトリック長崎大司教区
広報委員会
〒852－8113
長崎市上野町10－34
カトリックセンター内
TEL 095－843－3869
FAX 095－843－3417
振替口座 01880－5－2699
発行人
山田良秋
印刷所
株式会社 藤木博英社

イエスの愛を伝える使命を

福音宣教省長官フィローニ枢機卿が来日

教皇庁福音宣教省長官のフェルナンド・フィローニ枢機卿が9月17日（日）から26日（火）まで、日本司教団の招きを受け、司牧訪問のために来日した。福音宣教省は、「東方教会省所管地域を除く全世界の福音化、および宣教への協力を指導、調整する」（中央協議会ホームページ）役割を担う。同枢機卿は福岡・長崎・広島・大阪・仙台・東京の各地を訪れ、司教、司祭、修道者、神学生・志願生、信徒らに、教皇フランシスコのメッセージを伝えるとともに、可能な限り交流の時間をもった。長崎へは19日午前中に現地入り。対話集会や、西坂、大浦天主堂、原爆資料館への訪問、神学生・志願生との交流、浦上教会のミサでは多くの信者らと共に祈り、翌20日午前中に離崎した。

対話集会

19日11時過ぎ、フィローニ枢機卿が大司教館に到着。同行した駐日教皇大使ジョセフ・チェノットゥ大司教も一緒に、70人余の司祭・修道者・信徒らの歓迎を受けた。その後、約1時間半にわたり対話集会。枢機卿はイタリア語で話し、日本カトリック司教協議会ローマ事務所の和田 誠師（カルメル修道会）が通訳した。枢機卿はこの交流の機会に感謝の意を述べ、教皇フランシスコのメッセージを伝えるとともに、長崎の使命、宣教する理由について分かりやすく熱く語った。最後に、修道女、司祭、信徒からそれぞれ寄せられた質問に丁寧に応じた。（3点の質疑応答の内容は下段に掲載）

神学生・志願生との交流

17時45分、大司教館。フィローニ枢機卿は、長崎カトリック神学院、聖ルドヴィコ神学院、お告げのマリア修道会、純心聖母会の神学生・志願生ら計30人余と面談した。枢機卿は代表者らのあいさつを受けて、「教会においてはすべての人が中心にいるのであり、誰も遠く引き離されている者はいない」という趣旨の話をした。また、預言者や聖人、福者らの召命の例を挙げ、神が自分に望んでおられる道を見極めることの重要性、さらには自分の抱える弱さや限界を恐れるのではなく、そのような自分を招いてくださった神に全く信頼することの重要性を説いた。

質疑応答では、枢機卿自身の召命の歩みを振り返りながら、「愛することは信頼することであり、夫婦の愛と信頼によって新しい命が誕生するように、神とわたしたちとの信頼関係から召命は生まれるのだ」と語り、「恐れてはいけない」と、力強い言葉で神学生・志願生たちを励ました。養成担当者は「神学生・志願生たちにも枢機卿の思いは届いたことと思う。学生たちは教皇様からのプレゼントとしてロザリオをいただき、教皇様のためにも祈りをささげることを枢機卿に約束していた」と話した。

浦上教会でミサ

19時頃、浦上教会でフィローニ枢機卿と共に、主司式の髙見三明大司教、チェノットゥ大司教と4人の司教（那覇・鹿児島・大分・福岡）、約30人の司祭団の共同司式のもとミサが行われた。

枢機卿は説教で、この日の福音（ルカ7・11～17）を取り上げ、息子を失った女性の貧しさと苦しみに思いを致し、彼女を力づけるため息子を生き返らせたことについて触れた。「イエスの素晴らしい行動は、愛と同情の表れです。（中略）母親が自分の子どもを決して忘れることがないように、神は私たち人間を忘れることはありません。この神の愛を人々に伝えるのが福音宣教です」と語った。そして、私たちが皆、イエスの愛を伝える大きな使命に呼ばれていることを強調し、「（潜伏時代の）250年の間くすぶっていた火を、神は決して忘れることはありませんでした。たとえ日本が多くの苦しみ、長崎や広島の原爆の苦しみがあっても、神は皆さんを決して忘れることはありません。神が日本を訪れ、人々を救ってくださいますように」と結んだ。

教区主催追悼ミサ
11月19日（日）15時
宗教改革500年
シンポジウムと共同記念礼拝
11月23日（木）10時～15時

会場：浦上教会

長崎カトリック神学院
2018年度新入生募集

ただいま長崎カトリック神学院では来年度（2018年度）の新入生を募集しています。対象者は来年度中学1年生～高校3年生になる見込みのカトリックの男子です。

現在、小神学校では16名の神学生たちが生活しております。うち、長崎教区の神学生は11名です。20年前と比べると五分の一くらいでしょうか。ずいぶん少なくなりました。ただ、中身はかつてとそれほど変わっていないようにも思います。小神学生たちは、それぞれが人間的な未熟さを抱えながらも、みな司祭職を生きることを志し、日々の祈りと勉学、そしてスポーツに、元気に励んでいます（先日行われた、若手司祭団とのソフトボール交流会は一勝一敗でした）。

神学生が生活する現校舎（1989年11月6日落成。長崎市橋口町）

「司祭職を生きること」を目指す」とは、我々養成スタッフが共有している理念でもあります。「司祭になる」ことと「司祭職を生きる」ことは全く違うことです。誤解をおそれずに言えば、神学校は神学生たちが単に「司祭になる」ということを目標としていません。言い換えると、司祭養成のプログラムは、一定の期間、ぼんやりと（あるいは養成者たちの目をうまくごまかして）神学校に在籍しさえすれば、エスカレーター式に司祭になれるという仕組みではありません。むしろ神学校では、「司祭として生きる」ために必要な人間的成熟、祈りの習慣、知性などを身につけること、そのための努力を日々怠らないこと、ひたむきに成長していくことが求められています。一流のアスリートたちが厳しく自ら鍛錬するのは、それがルールだからではなく、よりよいパフォーマンスを追求しているからであり、同じように我々も神学生たちによりよい司祭として生きることを目指し鍛錬するよう求めているのです。

どれだけ神学生の数が減ってしまっていても、我々は司祭養成に対するこの真剣な想いを諦めてはおりません。「司祭職を生きることを目指す」。どうか、この想いに多くの方々が共感してくださり、たくさんの子どもたちに司祭召命への挑戦を働きかけてくださればと思っております。保護者の皆様、主任神父様方、小教区の皆様、どうぞ、よろしくお願いいたします。

願書締め切りは11月19日です。ぜひ主任神父様を通して長崎カトリック神学院へご連絡ください。

長崎カトリック神学院
養成者一同

今年4月に行われた入学式

〝メンタリティーを変えて〟

対話集会でのフィローニ枢機卿の言葉

―高齢化する日本の教会。小さい頃から信仰を培ってきた高齢者を大事にするならば、そこからまた新しい人たちが生まれると思うが…

私たちは、どんな宣教をしているか自問しなければならない。新しい羊たちのところに行きましょう。一般信徒の方に言いたい。キリストを伝えるのはあなたたちの務めでもある。私たちは洗礼によって、宣教師です。ですから、メンタリティー（意識）を変えてください。

―諸宗教との関わり方

いろんな宗教の方と協働するということは大変大切なこと。ただ、ひとつのことを区別しておかなければなりません。キリスト教は単なる宗教ではありません。宗教というのは、自分たちを超えた何かを求め、生まれています。キリスト教とはそういうもののひとつではなく、神から与えられた〝啓示〟です。私たちから始まったのではなく神から与えられた。これが本質的な違いです。

―私自身が福音化されているか考えると、福音化されていないと感じる。どうしたらよいか。

この質問は好きです。同じ疑問を使徒たちも持ちました。あなたの貧しさにおいて、神の力、神の豊かさが現れます。この貧しさの中でキリストの力が現れます。私たちは、神のあわれみの愛の道具です。私たち自身の貧しさ、弱さを気にするよりも、キリストを伝えるということにもっと気を配りましょう。だから、勇気をもってください。

枢機卿来日にあたり記録のため同行した中央協議会職員の話

フィローニ枢機卿はたった一人で来日し、10日間も滞在しました。どちらもバチカン高官としては珍しいことです。二十六聖人記念館や長崎・広島の原爆資料館、原発事故の帰還困難区域も訪問し、日本への認識が深まるにつれ発言内容も変化。戦地駐在の経験もある同枢機卿は「日本には平和への特別な召命がある」と何度も強調しました。

一方で、時間厳守、形式重視の日本社会に対しては、本質をおろそかにせず、人間を中心に考えるよう訴えていました。

ほしかげ

秋の紅葉で有名な大分県耶馬溪の断崖にある「青の洞門」は江戸時代の僧、禅海を先頭に、人々が鑿（のみ）と槌で岩を掘り続け、30年の歳月を経て完成させたと伝えられる。菊池寛はその話を基に小説『恩讐の彼方に』を書いた▲主人公の僧が鑿と槌で岩を掘り始めたところ、村人たちは、針の穴から天を覗く試みで徒労であると嘲笑する。だが、歳月を重ね、強い信念をもって岩を掘り続ける僧の姿に人々は心を動かされ、やがて力を合わせるようになる。そしてついに、岩の向こうに光が見える日が訪れる▲今年の7月に浦上四番崩れから150年を迎えた。浦上の先人たちは、6年間にもわたる出口の見えない迫害と試練の旅路の中、信仰と良心の自由を守って信仰を守り抜き、不屈の精神を貫き通した。そこには困難以上にキリストを信じる大きな喜び、希望の光があったに違いない▲死者の月を迎えるにあたって、多様な価値観が混在する社会に生きる私たちは、身近な信仰の先人たちがどんな気持ちでキリストを信じ、喜びや希望を与えてくれただろうか思い起こし、信仰の芯を強くすることが求められている▲過去と現在は状況が違うといえばそれまでだが、信仰の喜びを感じること、伝えることが難しい現代にあって、先人たちの熱い思いの中にキリストを信じる喜びを新たに見いだし、前に進むことができればと胸に思う。（汐）

連載企画（全5回）

150周年を記念する 浦上四番崩れ ― 第4回

純心聖母会　片岡千鶴子

四、高札の撤去
―浦上キリシタンを解放し、宗教に自由寛大でなければ、外国国民と友好交流ができない

浦上村の総流配は、駐日列国の批判を招き、列国公使の要求で外交談判が行われました。公使団の「信仰弾圧は人道に反する」、日本側の「国禁の宗教に対する処置は内政問題である」という異なる立場の論争が続く中、1871年、岩倉使節団が条約改正交渉のため、欧米に向け出発しました。使節団は出発にあたって、宗教問題は改正交渉の条件から外すことを申し合わせました。

ところが、出発直後に伊王島など旧深堀領のキリシタンを捕らえて佐賀の評定所（ひょうじょうしょ）に投獄する事件が起こりました。長崎の外字新聞が事件を取り上げ、瞬く間に欧米にまで報道されました。

使節団がアメリカで改正交渉に入ると、まず宗教問題が取り上げられ、改正の条件として信教の自由を規定することと、浦上キリシタンの釈放を要求されます。改正交渉は失敗、これより使節団は目的を先進文明の視察に変更、アメリカを見聞の後、ヨーロッパに渡りました。

使節団はイギリスでもフランスでも信教の自由と浦上キリシタンの釈放を要請されます。ベルギーでは使節団が泊まっていたホテルの前を、ブラッセル市民がデモ行進をして浦上キリシタンの釈放を求め、使節たちを驚かせます。やがて、このような外国世論の強い抗議は、使節たちの考えを変えていくことになります。伊藤博文は「我々は行く先々で、浦上キリシタンの釈放と信教の自由を求められ、さらには外国人民のデモまで受けている。浦上キリシタンは速やかに解放し、宗教の問題については自由寛大な意向を示さなければ到底、外国国民との友好ある交流を期待することはできない」と述べるに至ります。

ついに1873年2月21日、岩倉具視は信教の自由と浦上キリシタンの釈放を行うようにベルリンから政府に電報を打ちます。電報は海底ケーブルによって上海経由で長崎に届くと、飛脚が3日かけて東京に運び、直ちに2月24日、国内の辻々に立てられていたキリシタン禁制の高札が撤去されました。江戸幕府の禁令の発布より実に259年ぶりのキリシタン信仰の自由でした。3月14日「異宗徒帰籍」が発布され、流配先の信徒たちは4年ぶり、長いものは6年ぶりに故郷に帰りました。3384人の流配者のうち、613人が信仰のために殉教しました。

浦上は土地も家も奪われて荒れ果てていましたが、信仰の自由を得たことを何ものにも代え難い喜びとして生活の再建に励み、庄屋屋敷のあった高谷の丘に三十数年の年月をかけて浦上天主堂を建立するのです。

（続く）

教区シノドス これからどう進む ③

神のいつくしみを 共に生き、伝える

地区での信徒カテキスタ養成の実現に向けて

信仰養成部部長　中濱敬司

教区シノドスによって9つの公式提言が提示されました。この提言を推し進めていくために教区シノドス提言推進会議が開かれ、最初の優先課題として、「カテキスタの養成」（公式提言6・8）が選ばれました。これは、司祭・修道者の老齢化と召命の減少が目に見えて明らかであり、信徒のカテキスタを養成するのは急務だと感じている証拠です。

そこで、昨年高見大司教様と共に信仰養成部が中心となって委員会を立ち上げ、「カテキスタ養成の理念と方法」（案）を作成いたしました。各地の司祭団のご意見を寄せていただき、修正を重ね、現在は来年度から地区でのカテキスタ養成の実現にこぎつけようと地区司祭団を巡り、説明会を終えたところです。

養成理念として、9つのシノドス公式提言からその精神をくみ取ることにいたしました。それは、このシノドス提言が今後の長崎教区の信徒の養成の目指すべき方向性を示していると理解し、カテキスタも同じ精神を養う必要があるからです。大司教様が特に意識されたのは、求道者への信仰伝達と堅信後の信徒の再養成に心を配るカテキスタの養成です。

司牧の現場からさまざまな養成の在り方に疑問の声が上がります。一番の声は「信徒にとってカテキスタのハードルが高すぎて、なり手がいないのでは？」という懸念です。島本 要大司教様のことばを思い出します。「大工は大工をしながら大工になっていく。司祭も同じです」カテキスタの道も同様です。みんな失敗し、打ちひしがれても、子どもや求道者の純粋さに救われながら成長するのです。まずは皆でカテキスタを頂けるよう主に願いましょう。

小ヶ倉小教区創立30年

司牧にあたるマリア会は創立200年

マリア会の記念イコンを傍らに小教区創立30年を祝った

長崎南地区が2016年から合同堅信式を始めましたので、各小教区は、高見三明大司教様をお迎えする「公式訪問」を実施することになりました。大司教様のスケジュールが日曜日は満杯とのことで、小ヶ倉教会の献堂記念日9月6日に近い9月9日（土）にお願いしました。今年で小教区創立30年を迎えます。

この予定が決定したのち、今年10月2日に創立200年を迎えるマリア会の記念イコン（イタリア管区の会員が描いたカナの婚礼の場面「この人が何か言いつけたら、そのとおりにしてください」ヨハネ2章）が、マリア会に関係する世界各所を巡って、小ヶ倉教会に巡ってくることになりました。

ミサの前に大司教様に、イコンと来年6月10日に列福が決まった、汚れなきマリア修道会創立者メール・アデル・ド・トランケレオンについてご説明申し上げ、イコンに添えられた男女マリア会創立者自筆の手紙もご覧いただきました。信徒もイコンと手紙を興味深く眺め、写真に収めていました。

ミサ後、大司教様を囲みささやかな宴を催しました。その後、来年4月に教区司祭が小ヶ倉教会に派遣される件について、大司教様、教会役員相互に質疑応答が行われ、この時期に将来に向けての有意義な公式訪問をしていただきました。

小ヶ倉教会は、マリア会来日100年を記念して長崎教区で小教区を担当させていただくために創立されました。マリア会は、来年1月5日に来日130年を迎えます。長崎教区で長い年月、お世話になっています。ありがとうございます。

（主任司祭　髙田裕和）

さらなる一致のうちに

2017年度 臨時司教総会

9月25日（月）～28日（木）、2017年度の第1回臨時司教総会が、東京の日本カトリック会館で開かれ、全国16教区から司教らが集まり、オブザーバーとして男女修道会の代表者ら、事務局担当者らが参加した。

今総会は、初日に福音宣教省長官フェルナンド・フィローニ枢機卿を迎えての会合となった。総会の前週、日本の6教区を訪問した同枢機卿は25日、司教団と懇談を重ね、日本における福音宣教について話し合った。翌26日午前に帰国の途についた枢機卿を見送った後、午後から通常の総会の議事が始まった。

審議では、「福者ユスト高山右近の列聖を求める祈り」が承認され、「貧しい人のための世界祈願日」を、教皇の意向に合わせて日本の教会としても年間第33主日とすることが承認された。18年度司教総会の日程も決定。

日程後半では、いくつかの司教勉強会が開かれた。一つは、教皇フランシスコによる使徒的勧告『愛のよろこび』について、講師に上智大学教授のホアン・アイダル神父（イエズス会）を招いて学んだ。同勧告の神学的ポイントとして、「人が置かれている状況から出発する」「いつくしみ」「人間への信頼・人間論的楽観主義」「識別」「家庭のよさとよろこびの力」「家族としての教会」といった点を挙げた。また、過去の総会でも行われている、『司教儀典書』についての勉強会も続けられた。今回は、「堅信・聖体・叙階の秘跡以外の諸秘跡の典礼」と「教会の祈り」の部分を学んだ。

27日朝には、この日から、国際カリタスが世界各国で始める「移住者・難民」をテーマとする2年間にわたるキャンペーン（Share the Journey）を記念し、総会参加司教と中央協議会職員ともども、キャンペーンの祈りを祈った。また、ベトナムから来日中のジョセフ・ド・マン・フン司教（移住移動者委員会委員長）が日本の難民移住移動者委員会を訪問した際、全司教らにあいさつする場面もあった。

中央協議会はホームページの中で、「本総会を契機として、教皇、教皇庁とのさらなる一致のうちに、引き続き日本の司教団が日本社会において福音化のわざを勧めていけるよう、日本の教会、日本社会の皆さまと協力してまいりたい」としている。

総会参加司教と中央協議会職員ら、共に祈る

新刊良書

★烏賊墨の一筋垂れて冬の弥撒――万葉神父の日々是好日

著＝前田万葉

自作の俳句を織り交ぜながら、誰にでも分かるやさしい言葉で、温かく、ときに厳しく、福音を伝える前田万葉大司教。本書は、散逸していた1988年～2009年の教会報を中心にまとめた「五七五便り」のほか、講演や対談を収録。厳しい迫害、偏見に遭う中、堅く信仰を守り続けた長崎・五島列島のキリシタンの末裔である大司教が語る、貴重な一冊。

税別1800円。かまくら春秋社（電話 0467・25・2864）。

短信

〈田平教会ニュースが400号〉

毎月発行の田平教会ニュース『瀬戸山の風』がこの9月で400号となった。毎号1面に小教区の年間努力目標が記されている。現在の目標は、（2018年の）「献堂100周年に向け、先祖の信仰に学び、お祈りを深めましょう」。

〈司祭団ソフトボール〉

9月26日（火）平戸市の田平公園を会場に、司祭団ソフトボール大会が開催された。選手、応援団共にスポーツの秋の一日を楽しんだ。結果は1位長崎アルファ、2位長崎オメガ、3位五島、4位佐世保・平戸チーム。

ぶどう園

▼黒瀬の辻殉教祭　11月12日(日)14時、平戸市生月町クルスの丘公園。雨天時、山田教会。

▼講演会『ともにあゆむ学び――キリストと・家族と・教会と』　11月19日(日)13時～14時30分、カトリックセンター。長崎中地区家庭委員会主催。

▼講演会と自死された方々のための追悼ミサ　11月25日(土)中町教会。13時から講演会、15時から追悼ミサ。ゆりの会主催。教区人権委員会協力。

感謝

―香典返し―

●長崎カトリック神学院
浦川アヤ子様（中町）
故フランシスコ
浦川行雄様

右の方からご寄付・ご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。

長崎教区人権・難民移住移動者委員会主催
「ベトナムの教会の現状と技能実習問題」（仮）
日時　12月17日（日）13時30分～16時
場所　カトリックセンター 大ホール
講師　グエン・クアン・トゥアン師（広島教区）
岩本光弘氏
（福岡教区信徒・外国人技能実習生権利ネットワーク）

マイホームの美容と健康に！
（有）山川塗装
有限責任中間法人　全国住宅火災防止協会
長崎県建物営繕工事業協同組合理事
代表取締役　ペトロ　山川　進
佐世保市原分町1715-5
TEL(0956)49-3330　FAX(0956)49-8729

主の平安
カトリック式葬祭・飾付一式
（有）栄光式典社
代表取締役　ヨハネ　西村勇二
長崎市辻町7-18　TEL(095)844-4011
24時間営業　FAX(095)843-9896

十六聖人の取り次ぎ願う

列聖30周年 聖トマス西と15殉教者ミサ

9月24日（日）中町教会で、教区主催、長崎南地区評議会運営により十六聖人殉教者祭が行われた。今年は列聖30年にあたる。

初めに同殉教者記念庭園で献花式があり、この日、福音宣教省長官と日本司教団とのミサのため不在となった髙見三明大司教に代わり、下窄英知師（カトリックセンター）が献花、献香を行った。その後、聖堂でダニエル金桐旭師（滑石教会）が殉教についての講演をした。

続いて、下窄師の主司式、20人余の司祭団の共同司式、子どもたち中心の典礼でミサが行われ、南地区の教会や聖人ゆかりの教会、十六聖人と関わりの深いドミニコ会が司牧する福岡教区・箱崎教会からも主任司祭と信徒らが参加し、共に祈った。

説教師の松村信也師（イエズス会）は朗読箇所（ヨハネ12・24）を挙げ、ここでは種の死よりも、〝多くの実を結ぶ〟新しい生き方が注目されていることに言及。日々の困難や不幸から何かの意味を見いだす積極的な姿勢を「私たちは選ぶことができる」と語った。最後に、イエスの招きに応え、「一粒の麦に私たちも変えられていくことができるように」と、十六聖人の取り次ぎを願い祈った。

殉教者の信仰に鑑みる

高鉾島殉教400年記念ミサ

長崎港口の高鉾島で1617年10月1日に殉教したガスパル上田彦次郎とアンドレア吉田をたえ、神ノ島小教区（主任鶴崎伸也師）は10月1日（日）、聖母行列に続き記念碑・顕彰碑の祝福と殉教400年を記念するミサを、髙見三明大司教の主司式、12人の司祭の共同司式により聖堂内でささげた。

教会の窓から見える高鉾島

聖母行列は毎年5月の初めに行っているが、今年は高鉾島殉教400年を迎えるために延期していた。

ガスパル上田彦次郎はドミニコ会のナウァレト神父、アンドレア吉田は聖アウグスチノ修道会のエルナンド神父をかくまった罪で捕らえられた。2人は役人の尋問の中で、「神父がいなくなることは自分の命を失うよりも辛い」と役人の前ではっきり信仰宣言し、高鉾島で共に斬首に処され殉教した。（参考資料・片岡弥吉著『長崎の殉教者』）

ナウァレト神父とエルナンド神父は、その年の6月1日、大村湾の鷹島で殉教。殉教した4人は1867年7月7日、日本二〇五福者にあげられた。ミサ当日は、神ノ島小教区をはじめ、殉教者にゆかりのある時津、城山など各地から200人余の信徒が集まった。

古巣 馨神父は説教の中で、「2人の殉教者がまいた信仰の種は、神ノ島出身の西兄弟へ受け継がれ、1865年3月17日、信徒発見後、2人はプチジャン神父を助け、信仰の水先案内人として活躍された。今を生きる神ノ島の皆さん、先輩の信念を胸に現代の信仰の水先案内人として活躍してください」と語った。

ミサ後は神ノ島愛児園ホールで祝賀会もあり、参列者一同親睦を深めた。

剣を鋤に、槍を鎌に

島原・天草殉教祭―福者記念ミサ

イザヤ 2・4

10月8日（日）島原・天草殉教祭―福者記念ミサ（島原小教区主催）が、南島原市・原城跡で行われた。当日は天候にも恵まれ、200人余の参列者を得て、記念ミサがささげられた。

説教を担当したブリ・ヤン・アロイシイ師（愛野教会）は、殉教者に倣い「心の貧しい人」として生きるようにと優しく語りかけた。

参列者の中には協賛する天草の諸教会を含め、県内外から多数の巡礼者、遠くは大阪からの巡礼者もいた。参列者の一人は、「初めてこの殉教祭のミサに参加したが、大きな力をもらった気がした。来年も参加したい」と語った。

また、原城跡が世界遺産登録候補となっているため、観光客も年々増えており、殉教祭の様子を興味深く見守る姿も見受けられた。

この殉教祭は小教区主催で行われているが、近年準備作業が困難になってきたため、一昨年からは長崎北地区評議会が協力している。小さな教会を支え、快く手伝ってくださる多くの方々に、信徒たちは感謝していた。

シナピス会 最後の支援地訪問を終えて

元会長　山口瑞代

シナピス会は今年3月をもって会としての活動を終了いたしました。本当に長い25年間、支援をいただきました皆様には心からお礼申し上げます。

会としての活動は終了いたしましたが、8月3日から8日まで、フィリピンのマニラとネグロス島のバコロドへ最後の訪問を行いました。高校生1人を含む7人で行ってまいりました。

昨年の奨学金送金後から今年3月までの会費を、各教会、また個人から送っていただき、その支援金も持参いたしました。今回の訪問と奨学金が最後となることは、昨年から支援地に伝えていましたので、各地で感謝の言葉とともに感謝状まで頂いてまいりました。先輩の方々のお力が何より大きかったと思っています。

現地のキンダースクールのスタッフと

初期のころからの支援金も5千万円を超えています。多くの奨学生が巣立っています。一人では何も出来なくても、多くの人が小さな力を出し合うと大きな力となることの証しです。会員の会費は一人月200円だったのですから。

現地の皆さんからの祈りと感謝の気持ちを受け止めて帰国いたしました。

NCK主催 公開講座

『第二バチカン公会議公文書』をシリーズで学ぶ No.4

信徒使徒職と宣教活動

11月25日（土）～26日（日）
カトリックセンター ホール

受講料　両日 2,000円
　　一日のみ 1,500円
申込〆切　11月17日（金）

詳細は小教区にお配りしている案内をご覧ください

主催：NCK（日本カテキスタ会）
協賛：長崎大司教区信仰養成部

浦上キリシタン殉教祭

名古屋教区・卯辰山長崎殉教者ミサ

9月10日（日）金沢市の卯辰山（うたつやま）にある長崎キリシタン殉教者碑の前で、名古屋教区・松浦悟郎司教司式のもとミサが行われました。名古屋教区からの信者50人余を含め、約150人の参列がありました。

浦上四番崩れにより、〝百万石〟加賀藩に流された信徒は526人。そのうち命を落とされた信徒は105人の方々でした（参考資料・木越邦子著『キリシタンの記憶』）。

この広場に殉教者碑が建立されて来年で50年になります。私が金沢教会に所属するようになった年の翌1968年、この碑が建てられました。現在、2年に一度くらいミサに参加しています。遠く離れた場所で今も、浦上キリシタンのための祈りがささげられています。

本河内教会　白浜忠美

信徒の役割をテーマに

教区典礼委員会主催の公開講座

9月18日（月）カトリックセンターで、日本カトリック典礼委員会の委員である聖ザベリオ宣教会司祭フランコ・ソットコルノラ師（写真）を招いて、「信徒の大きな役割―典礼における参加と奉仕」をテーマに、公開典礼講座が行われた。

午前中は話の中で、第2バチカン公会議によって始まった典礼刷新が今も継続されていること、そして典礼における信徒の参加には、外面的参加（動作や言葉）と内面的参加（意識や心）の両方不可欠である事が強調された。午後からは、教会の中での信徒の典礼への奉仕には、信徒としての一般的奉仕（典礼の準備・侍者・朗読奉仕など）と司祭を助けるための補完的奉仕（司祭不在時のみ言葉の典礼の司会・聖体授与の臨時の奉仕者など）があり、信徒は洗礼と堅信の秘跡によってそれらの奉仕に招かれているが、その任命には十分な養成や慎重さが必要であるとも話された。

最後に、日本古来の文化や宗教に造詣の深い講師は、私たちが見落としている他宗教の中に見られる所作や服装の美しさ、荘厳さ、沈黙の大切さなど、私たちが学ぶべき点、反省すべき点を指摘され講演を終了した。

土地・建物の活用など審議

教区顧問会

教区顧問会が9月20日、大司教館で開催された。大阪聖ヨゼフ宣教修道女会の黒崎修道院の土地・建物の寄贈の意向を受け、どのように活用するかが審議され、広く、諸委員会などの意見を求めることとなった。かつて、青少年のキャンプやさまざまな研修会に利用したこともある。

また、来年4月開館予定の『大浦天主堂 キリシタン博物館』の指定管理者に、選考委員会の審議を経て、NPO法人世界遺産長崎チャーチトラストが推薦され、同法人と基本協定書を締結することが承認された。

引き続き、教区会計から、教区財政見直しプロジェクトチームの再開が報告された。同チームは教区費改定後、近年活動を休止していたが、小教区会計の統一や司祭の経済問題などを審議するため、再開することとなった。

また、9月14日に開催された司祭評議会では、髙見三明大司教が諮問した聖フランシスコ病院の教区による引き受けの件で、司祭評議会の意見を整理し、病院側との協議を進めることが確認された。同病院を運営している聖フランシスコ病院修道女会は、会員の減少に伴い、同病院の存続のために、大司教と協議してきた。

来年5月から開催

みつあみの会主催 一日の祈りの集い

私たち一人ひとりが置かれている現実から祈ることによって、神と出会えるよう、教会で信徒の方を招いての祈りの集いを計画しました。

初心者の方でも安心して参加できるよう、祈りの同伴者が個人的な面接を通してお手伝いします。神と静かに過ごす時を持ちたい方はぜひご参加ください。（1回に15人まで）

日時・場所　月1回、次の教会で行う予定です。2018年（8・9月は除く）／5月（城山）6月（佐々）7月（中町）10月（植松）11月（西町）12月（本河内）2019年／1月（三浦町）2月（滑石）3月（諫早）

時間　9時15分受付～16時（ミサがある時は、16時30分まで）

主催　みつあみの会（お告げのマリア修道会・純心聖母会・聖母の騎士修道女会）

スタッフ　同伴者としての養成コースを終了した、みつあみの会のシスターとCLC会員。祈りの集いへの参加希望者の人数に合わせたスタッフが同伴します。

＊CLC（クリスチャン・ライフ・コミュニティ）はカトリック教会に属する信徒団体

持参するもの　新・旧約聖書、筆記用具、昼食

参加費　500円

※詳細は本紙2018年2月号に掲載予定です。

聖ヴィンセンシオ・ア・パウロ会 定期総会と講演

長崎中央理事会 書記　山田博行

総会で人権相談室の福田室長（右の写真）の講演を熱心に聴く会員ら

聖ヴィンセンシオ・ア・パウロ会（SSVP）長崎中央理事会の定期総会が、10月1日（日）10時からカトリックセンターで開催された。参加者は37名（会員数45名）で来賓として全国理事会の中山正士会長が臨席された。

当日は、山口省吾会長の開会宣言に続き、中山会長ならびに岩崎晋吾指導司祭（諫早教会主任）のあいさつがあり、2016年度の会務報告・会計報告、また、昨年9月に大阪で開催された全国大会に参加しての報告がなされた。その後、質疑応答があり活発な意見が交わされた。昼食後、「長崎大司教区子どもと女性の人権相談室」の福田真理室長が、「福音と聴く力」と題し人権の観点から基調講演を行った。

誰もが生まれながらに等しく持っている権利は人権であり、皆が幸せに生きる方法を学び、差別を他人事ではなく自分自身の問題ととらえ、一人ひとりの真摯な取り組みが、人権が尊重される社会の実現につながる。（姦通の女の話から）イエスがとった行動は、糾弾に遭った女性の心の声を聴き、また、長い沈黙をもって糾弾する人たちの良心にも神の声が聴こえるようにすることであった。さらには会の支援活動においては、「傾聴的に関わる」ボランティアを採り入れ、ひたすら相手の話を聴く姿勢をとられたら良いでしょうと結ばれた。

講演後、岩崎指導司祭の司式で感謝と派遣ミサが行われ、山口会長の閉会の言葉で総会を終えた。

会の歴史と現状について

SSVPとは？（THE SOCIETY OF SAINT VINCENT DE PAUL）聖ヴィンセンシオ・ア・パウロ会の略名称で、もちろん聖人に由来の会です。

始まりは、1833年（天保4年）にフランスで創立された、国際的なカトリックの使徒組織です。フランス革命直後の社会の混乱の中で、言葉より行動をもって、キリストの愛を「証し」しようと、片隅に見捨てられ生活に苦しんでいる人々を訪問する事から始まりました。

その後創立者たちは、17世紀に活躍した聖ヴィンセンシオ・ア・パウロにならって会の名称とされ、日本においては1882年に設立されたようです。その後、1914年に暁星学園の卒業生によるカトリック研究会が、横浜のセント・ジョゼフ学園でガシー修士（マリア会）の指導により活動を始め、翌年日本初のSSVPが誕生しました。長崎においては、その暁星学園とほとんど時を同じくして、長崎海星カトリック研究会が、ワルテル師（マリア会司祭）の指導で愛徳の活動を始めていました。

1928年の12月に12名の会員は、早坂久之助司教の下、「SSVP日本殉教者会」を結成しました。会員は自分の時間を分け合い、わずかな持ち物を分け合いました。兄弟愛に生きてきた奉仕の精神こそ、SSVPの意図する活動の中心であって、彼らは「ことば」より「行ない」をもってキリストの愛を証ししました。終戦後の進駐軍による援助品の配布を契機に、小教区ごとに協議会が次々に創立されました。

1956年には49の協議会が県内に組織づくられましたが、その後援助品の支給が終わると同じくして困窮者が景気の上昇とともに減少しました。協議会も徐々に減少して昭和の終わりから特に会員の高齢化と新会員の加入がみられない結果、現在長崎市内に7協議会が存在するのみとなっています。現実的には、支援対象者が見えにくくなり、個人情報の壁が、支援を必要とする人たちを遠ざけています。2018年には、創立90年を迎えますが、活動の大きな変換期となるやもと懸念されます。（山田博行）

みことばにふれて 142

松尾 太 神父（城山教会）

みことばは、わたしに向けても語られていると分かるまでに、ずいぶん時間がかかってしまったような気がします。幼児洗礼で、教会には幼い頃から通っていたものの、神さまが、自分に語りかけていると気づくのには、それなりに時間がかかりました。

聖書には何が書かれているのか、最初に気になり始めたのは、高校生のときでした。12歳の時に堅信式の記念にいただいた新約聖書を開いて、とにかく最後まで読んでみようと、少しずつ読み始めました。もともと本が好きな方ではなかったので、すぐに飽きるかもしれないと自分でも思っていましたが、存外、最後まで読み終わってしまいました。さて、最後まで読めば、何らかの実りがあったであろう、と思われるかもしれません。わたしもそう考えていたように思います。ところが、わたしは飽きっぽいので、一度読んだというだけで何となく満足して、再び聖書をほっぽり出してしまいました。それで、みことばとはそれっきり、当分の間ほぼ絶縁状態となりました。

数年後、青年たちの信仰勉強会に参加することがあり、聖書は何ともとへブライ語とギリシア語で書かれているらしいということを知りましたが、「へー、そうやったたい」という程度の印象でした。そうこうしているうちに、お世話になった神父様たちのおかげでアウグスチノ会に入会するというお恵みに与り、毎日の教会の祈り、そして、大学などで聖書の専門家によるみことばについての講義に参加する機会をいただくなど、高校生の頃の自分には想像もつかないような体験をさせていただきました。

聖書の成り立ち、みことばを受け取った人々の生々しい生き様をより詳しく学ぶに従って、みことばが、それまで感じていたよりもはるかに生き生きと迫ってくるようになりました。その頃から、不思議なことに、「みことばは肉となり、わたしたちの間に住まわれた」（ヨハネ1・14）といった聖書の言葉が、すさまじいほどのリアルさで、迫ってくるようになりました。

そうして近頃は、わたしの周りにいる一人ひとりが、実は受肉なさったイエス・キリストに結ばれている小さなみことばだったんだということを、じわじわと感じています。神さまが与えてくださった家族、友だち、教会の仲間たち、修道会の兄弟たちを通して、亡くなった人も生きている人も、この世界のすべてを通して、そして、わたしの魂の奥のおくで、いつもささやきかけているみことばに、ようやく少しずつ気づき始めたような、今日この頃です。

ステファノ 百村（ひゃくむら） 等 神父

（聖パウロ修道会）

9月11日、聖母病院（東京）で肝臓がんによる多臓器不全のため逝去。83歳。

1934年4月20日、長崎県生月町に生まれる。山田教会で受洗。

48年同会入会、51年初誓願、56年終生誓願宣立、63年ローマで司祭叙階。文章校正の能力に秀で、書籍編集を通しての福音宣教、『カトリック新聞』の編集に従事。管区秘書、福岡修道院院長、箕面修道院（大阪）院長などを務める。全世界のキリスト教関連の切手を収集、月刊誌『家庭の友』で長年その紹介を続けた。2015年7月に脳出血で倒れ、それ以後はリハビリに励んでいた。

葬儀・告別式は9月13日、日本管区長鈴木信一師により同会若葉修道院（東京）で行われた。

マリア 赤尾文子さん

（故赤尾孝信師の母）

9月12日、逝去。82歳。葬儀・告別式は9月14日、9人の司祭と多くの方々の参列のもと、浦頭教会で執り行われた。

長男の邦幸さんは、「母は明るい性格でした。昭和60年には子・孝信神父を、平成5年には夫・俊重を亡くすという悲しい出来事もありましたが、ちぎり絵やパッチワーク、陶芸、料理などを趣味としながら母なりの人生を送ってきたように思います。人をもてなすのが好きで、常に各地の司祭のご家族との交流を続け、時には歴代小教区司祭や近隣の方々を交えての懇談を楽しんでいました。82年の生涯は祈りと共にあったように思います。皆様にお見送りをしていただき、母もさぞかし喜んでいることと思います。心から感謝申し上げます」と語った。

さわやかスポーツの秋

下五島地区

9月10日(日)大津みなと公園を会場に、小教区対抗スポーツ大会（地区評議会主催）が開催された（左の写真）。大会には地区司祭団やシスターらも参加。競技はペタンク（フランス発祥の球技）とゲートボールの2種目。皆、他小教区との親睦と交流の時間を楽しみながら、さわやかな一日を過ごした。

佐世保地区

10月1日(日)長崎県立大学グラウンドで壮年会ソフトボール大会が行われた（右の写真）。15チーム約200人の選手が4ブロックに分かれて競い、応援団を含め総勢約500人が集まり、にぎわった。ブロック別の結果は次の通り。▼A①鹿子前②船越▼B①相浦B②相浦A▼C①褥崎・大加勢②三浦町▼D①浅子②神崎

砕石・栗石・港湾用捨石一式生産販売
たつみ産業株式会社
西田商事株式会社
代表取締役 ミカエル 西田 剛
本社 〒857-1166 佐世保市木風町1468番地
TEL（0956）31−8268

注文家具の店 家庭祭壇・聖具・祭壇・長椅子・朗読台
かおり
佳織木工所
kaori-mokkousho.com
《家庭祭壇ギャラリーOPEN パンフレットもございます。》
〒857-0032 佐世保市宮田町7-7
☎0956（23）1867
代表 ラウラ・ビクーニア 濱口 佳織

人と人の絆を大切に・ご葬儀のご相談は
メモリードホール・典礼会館・中央斎場
長崎・諫早・大村・佐世保
株式会社メモリード　メモリード葬祭　検索　事務局 ペトロ 田川慶司
0120−44−6666

ご先祖に心より感謝を・・・
材石治明
長崎本店 長崎市城栄町13-1 電話（095）846-3598
大村店 大村市民霊園内 電話（0957）50-3008

長崎カトリックセンター前 長崎市上野町1-5 TEL 095-845-6175
医療法人 平田クリニック
院長 ヨゼフ 平田哲也
内科・循環器科・入院可
通所リハビリテーションあり

交通誘導警備 常駐警備 イベント警備
（有）小田警備保障
警備員募集！
電話 095-856-6524 FAX 095-856-6523
長崎市横尾3丁目31-15 代表取締役 パウロ 小田 睦